

地球観測に係る 最近の動向と今後の予定

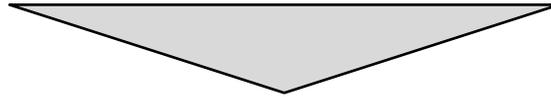
平成26年9月3日

「地球観測の推進戦略」を取り巻く状況

○平成24年12月 「『地球観測の推進戦略』の実施状況のレビューについて」

(科学技術政策担当大臣等政務三役と総合科学技術会議有識者議員との会合)

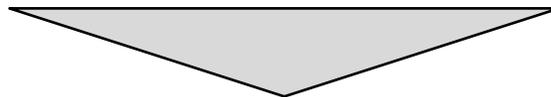
⇒「推進戦略」の策定後8年が経過し、これまでの取組及び成果についての報告書作成を文部科学省に指示



○平成25年8月 「地球観測の推進戦略の見直しに向けた我が国の地球観測の取組状況についての報告」

(地球観測推進部会)

⇒これまでの毎年のPDCAサイクルよりも、比較的長期を見据えた実施方針の下で、より実効的なPDCAサイクルを回していくことが適切



○平成26年8月 「GEOSSの新10年実施計画の検討に向けた我が国の地球観測の方針の策定について」

(内閣府政策統括官(科学技術・イノベーション担当))

⇒国際的な新10年実施計画の検討において、我が国が主導的な立場をとるためには、GEOSSの動きに対応した新たな我が国の今後10年間の地球観測の実施方針の策定が急がれる。そのためには、GEOSSをはじめとする地球観測に関する我が国の国際的な対応を検討する上で中心的な役割を果たしている文部科学省が中心となり、関係各省と連携して長期的な実施方針を策定することとしたい。

「地球観測の推進戦略の見直しに向けた我が国の地球観測の取組状況についての報告」

総合科学技術会議による総合的なレビューに資する観点から、これまでの成果や課題をまとめるとともに、国内外の状況変化等について考慮する必要があるものを整理。

➡ 総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）に提出済

<これまでの取組・成果>

- ✓ データ提供が定常的に行われるようになり、防災、気象、気候、農業、漁業、地理空間情報等の分野でデータの利用が進んだ。
- ✓ 気象観測や被災状況の確認、その他観測情報等の共有促進のため、GEOSS等の観測・情報ネットワークが構築された。
- ✓ 関係府省・機関の間でも、観測計画の立案、データの相互利用が進んでいる。

<状況変化など>

- ✓ グローバル化の進展
- ✓ 気候変動及びその影響の顕在化、対応の必要性
- ✓ 情報技術の高度化、ビッグデータ等の情報の統融合を通じた新たな知の創出
- ✓ 衛星をはじめとする観測技術の向上
- ✓ GEOSSの10年の延長、持続可能な開発目標（SDGs）や防災の在り方、フューチャー・アース構想（課題解決のための科学）、オープンデータ化などの国際的議論

<取組にあたっての重要な観点>

- 未知の現象の解明、新たな科学的知見の創出を目指した観測と出口を見据え課題解決を目指した観測の戦略的な推進
- データの統融合及び利活用の推進（利用者目線でのデータ保存・提供、データのオープン化、ビッグデータサイエンス）
- 観測基盤の維持と長期継続的観測の実現
- 精度の向上や新たな観測手法の開発等を通じた科学的なブレークスルーの実現、課題解決への貢献
- 国際的な動向を踏まえた戦略的な観測の実施（科学技術外交・観測における国際協力の推進）

「GEOSS新10年実施計画」に向けた対応状況

○平成26年1月 地球観測に関する政府間会合(GEO)閣僚級会合

⇒全球地球観測システム(GEOSS) 構築のための取組みを2025年まで延長することを承認

【日本政府ステートメント（櫻田義孝文部科学副大臣）】

「次の10年は、これまで以上に国際社会や様々な関係者との連携を深め、データ利用者の意見を反映させた計画の策定やシステムの構築を通じて、地球観測の成果を広く社会に役立てるGEOSS構築に取り組むことが、持続可能な社会の構築に欠かせない」

○平成26年4月 GEOに「新10年実施計画検討作業部会 (IPWG)」設置

(4月、6月、9月に対面会合を、合間に電話会議を開催)

⇒我が国から、東京大学小池俊雄教授が共同議長に就任(7月)

岐阜大学村岡裕由教授が執筆チームに参加(同上)

⇒研究開発局に「全球地球観測システム(GEOSS)新10年実施計画に係る検討会」を設置して、今後国際的な議論を進めていく上で必要な方針や施策について有識者等と意見交換等を行い、小池教授、村岡教授を通じてIPWGの議論に反映

○平成26年7月 GEO第31回執行委員会

⇒IPWGより、議論前半部分に関する中間報告書提出。
新10年実施計画の執筆段階に移行。

○平成26年11月 GEO第11回本会合

⇒IPWGより、新10年実施計画の初案提出

○平成27年末頃 GEO第12回本会合及び閣僚級会合

⇒2016年以降の「GEOSS新10年実施計画」策定

今後の地球観測の方針の検討

GEOSS新10年実施計画に対する我が国の貢献の在り方を踏まえ、GEOSSをはじめとする地球観測に関する我が国の国際的な対応を検討する上で中心的な役割を果たしている文部科学省が中心となり、関係各省と連携して長期的な実施方針を策定する。

- 1) 「GEOSS新10年実施計画」の交渉本格化に伴い、我が国の貢献の在り方を明確にし、国際的な対応を戦略的に進める必要があることから、「GEOSS新10年実施計画」に対応した我が国における地球観測の実施方針を策定する。
- 2) この「実施方針」には、我が国における取り巻く現状や「地球観測の推進戦略」のレビューを踏まえ、**未知の現象の解明**や**新たな科学的知見の創出**を目指した観測のみならず、**課題解決**や**新たなライフスタイル・産業の創出**といった**イノベーションの基盤**としての出口を見据えた地球観測の役割を記述するとともに、その成果を活用し、新10年実施計画の下での我が国の国際的プレゼンスの発揮方策を盛り込むこととする。
- 3) 検討にあたっては、文部科学省（**地球観測推進部会**）を中心に、**関係省庁と連携**して検討を進める。
- 4) 新10年実施計画案の対応は「GEOSS新10年実施計画に係る検討会」（GEOSS検討会）において行っているところ、ここでの検討状況は、適宜、推進部会に報告するとともに、推進部会における議論のフィードバックを受ける。
- 5) CSTIとも調整をしながら議論を進め、中間とりまとめや最終報告はCSTIに報告し、今後の「地球観測の推進戦略」の実施や第5期科学技術基本計画等の検討に反映させる。

【検討スケジュール】

平成26年10月頃 中間取りまとめ骨子の検討 →GEO本会合（12月）対応への反映

平成26年12月頃 中間取りまとめ（案）の検討 ←GEO本会合の結果の反映

平成27年1月頃 中間取りまとめの決定

その後、「GEOSS新10年実施計画」の策定にあわせ、最終とりまとめを実施する（平成27年末頃まで）。

検討作業スケジュール(案)

平成26年(2014年)

平成27年(2015年)

4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

【CSTI】

報告

報告

【MEXT】

地球観測推進部会

第6回

第7回

第8回

第9回

「我が国における地球観測の実施方針」の検討

中間とりまとめ

最終報告

GEOSS検討会

IPWGの動向にあわせ適宜開催。

【GEO】

執行委員会

本会合

第1フェーズ
報告書

IP第1案

最終案

閣僚級会合
(新10年実施計画策定)

STAGE 1

STAGE 2a

STAGE 2b

IPWG